

第11回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS11）のあらまし

■ はじめに

第11回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS11）は、2016年8月22日（月）から27日（土）の6日間にわたり、ロシア連邦・サンクトペテルブルクにおいて、ロシア科学アカデミー世界海洋ワーキンググループ（Sea Coasts）との共催により、「EMECS11-Sea Coasts XXVI Joint Conference」として開催されました。

この会議では、「変動する世界における沿岸域・コミュニティのリスクマネジメント」をメインテーマとして、世界21か国から、閉鎖性海域に関する研究者など365名が参加し、「ICMと里海特別セッション」や3会場に分かれての分科会、「青少年環境教育交流セッション（SSPセッション）」が行われ、130の口頭発表と116のポスター発表が行われました。8月26日（金）の閉会式においては、今回の会議の成果として、「サンクトペテルブルク宣言」と「青少年環境教育交流宣言（SSP宣言）」が採択されるとともに、次回の第12回エメックス会議は2018年にタイ王国・パタヤで開催されることがアナウンスされました。

この他、8月25日（木）午後にはサンクトペテルブルク市内を見学するシティツアーが、また、最終日の8月27日（土）には洪水防御ダムやクロンシュタット等を見学するテクニカルエクスカーションが開催されました。



主会場：アジムットホテル・サンクトペテルブルク



サンクトペテルブルグ市街地（ホテル18Fより）

■ 開会式

開会式は、8月23日（火）9時30分から、主会場であるアジムットホテル2階の「アジムットホール」において、現地組織委員会副代表であるジョージ・ゴゴベリーゼ氏（ロシア国立水文気象大学）の司会により開催されました。まず、開会にあたって、イワン・セレブリスキー氏（サンクトペテルブルク市環境副委員長）、金澤和夫氏（兵庫県副知事）、レオニット・ジンダレフ氏（ロシア科学アカデミー Sea Coasts 代表）、ヴァレリー・ミハイエフ氏（ロシア国立水文気象大学長）など、ロシア・日本双方の関係者7名によるあいさつが行なわれました。

最後に、事務局のアレクサンドラ・エルショワ氏（ロシア国立水文気象大学）から、今回の会議の全体説明が行われました。



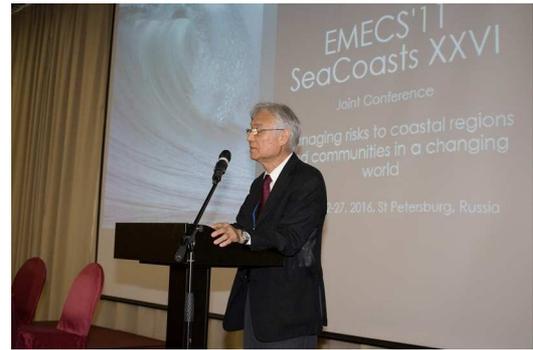
開会式（アジムットホール）

■ 開会セッション

コーヒブレークの後、10時20分から同会場において、渡邊正孝氏（国際エメックスセンター科学・政策委員長）の司会により全体セッションが行われました。

全体セッションでは、アンドレイ・ザツェーピン氏（P.P. シルショフ海洋学研究所）、鈴木基之氏（国際エメックスセンター）、エヴァンゲロス・パパサナシオ氏（ギリシア海洋研究センター）の基調講演が行われました。

基調講演の終了後、参加者全員によるフォトセッション（記念撮影）が行われました。



座長：渡邊正孝氏（国際エメックスセンター）

[講演]

1. Andrey Zatsepin, P.P. Shirshov Institute of Oceanology RAS, Russia
Short-term variability of coastal zone hydrodynamics under an external forcing: observations at the Black Sea research site of SIO RAS
2. Motoyuki Suzuki, President, International Center for Environmental Management of Enclosed Coastal Seas (International EMECS Center), Japan
Human Activities and Coastal Seas
3. Evangelos Papathanasiou, Hellenic Center for Marine Research, Greece
Tools and specific recommendations for policy makers based on the results of the PERSEUS EU Project

■ 「ICMと里海」特別セッション

8月23日（火）14時からアジムットホテル18階・ベルリンにおいて、柳哲雄氏（国際エメックスセンター）を座長として、「ICMと里海特別セッション」が開催されました。

まず、特別セッション開催にあたり、金澤和夫氏（兵庫県副知事）からあいさつをいただきました。その後、口頭発表が行われ、パート1として「日本における沿岸域管理の特別プロジェクトの紹介」、パート2として「ICMと里海に関するケーススタディ」と題して合計10名によるプレゼンテーションが行われました。パート1においては、柳哲雄氏が研究代



座長：柳哲雄氏（国際エメックスセンター）

表となり実施している環境省環境研究総合推進費による戦略研究プロジェクト「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」の5つの研究テーマについて、それぞれのテーマリーダー等が研究内容の紹介を行いました。

1. 柳哲雄（国際エメックスセンター）
2. 奥田哲士（龍谷大学）
3. 小松輝久（東京大学）
4. 吉田尚郁（環日本海環境協力センター）
5. 仲上健一（立命館大学）

また、パート2においては、日本、米国をはじめ、フィリピン、インドネシア、ロシアにおける ICM と里海に関する取り組み状況が各国の関係者から報告されました。

1. 根木桂三（環境省）、日本
2. ロバート・サマーズ（元メリーランド州環境長官）、米国
3. ディビット・ネマジー（メリーランド大学）、フィリピン
4. スヘンダール・サコマル（インドネシア応用技術庁）、インドネシア
5. ルーベン・コシアン（P.P. シルショフ海洋学研究所）、ロシア

■ 青少年環境教育交流セッション（SSP セッション）

エメックス会議では、2003年にタイ王国・バンコクで開催した第6回エメックス会議以降、次世代の環境保全活動を担う環境教育の推進に資するため、青少年環境教育交流セッション（The Students and Schools Partnership Session）を開催しています。

第11回エメックス会議においては、ロシア9名、アメリカ2名、日本2名の合計13名の学生が参加しました。

最初のプログラムとして、8月24日（水）10時30分から、A.P.カルピンスキー地質調査研究所において、「気候変動と沿岸海域の展望」として、ダリア・リャブチュク氏（同研究所）からバルト海について、マイケル・ハーディスティ氏（ワシントンカレッジ）からチェサピーク湾について、柳哲雄氏（国際エメックスセンター）から瀬戸内海について、ジャン・ポール・デュクロトワ氏（ハル大学）から北海についての講演がありました。また、午後は同研究所の博物館の見学を行い、その後16時からはアジムットホテルにおいて開催されたポスターセッションに参加しました。

8月25日（木）及び8月26日（金）には、ロシア国立水文気象大学において、ウェイン・ベル氏及びダリア・リャブチュク氏が共同座長となり参加者からの口頭発表や討議が行われました。

8月26日（金）午後に行われた閉会セッションでのベストポスター賞として、林由真さん（日本）、セルゲイ・キリレンコさん（ロシア）、キルスティン・ウェブさん、エリカ・クーンツさん（米国）の3組（4名）が受賞しました。

また、参加者の討議を経て作成した SSP 宣言を6名が分担して朗読しました。

この他、8月23日（火）の午後に開催されたシティツアー及び8月27日（土）に開催されたテクニカルエクサ

クションにも参加し、見聞を深めました。



A. P. カルピンスキー地質調査研究所



SSP 参加者による討議

■ 口頭発表（分科会）

口頭発表は、8月23日（火）から26日（金）まで、アジムットホテル、及び、ロシア国立水文気象大学において、それぞれ3会場に分かれ130の口頭発表が並行して行われました。



ロシア国立水文気象大学での分科会

口頭発表のテーマは次のとおりです。

- ICM and Satoumi
- Coastal erosion and dynamical processes in the nearshore zone
- Coastal and marine ecosystems: monitoring and modelling
- Coastal forecast of Russian tideless seas development
- Sustainable use and development of coastal resources: Effective management and approaches
- Coastal systems and their dynamics (From coast to water and from water to coast)
- Climate change in the changing world. Coastal adaptation to climate change
- Prevention and Mitigation of Natural Disasters Risks in Coastal Regions – Special session of BRICS countries representatives

■ ポスターセッション

ポスターセッションは8月24日（水）16時から18時の間、アジムットホテル・アジムットホールにおいて開催され、一般101件、SSP15件の合計116件の発表がありました。会場では、会議参加者と発表者の熱心な質疑応答や意見交換が行われました。

また、8月25日（木）にルーベン・コシアン氏（ロシア）を委員長とするベストポスター賞選考委員会が開催され、一般6件、SSP3件の優秀ポスター賞が選定されました。

Best Poster Award (selected)

- No.11 Ryo Sakamoto; Coastal alteration and changes in shoreline morphology due to artificial structures in Miiraku Town on Fukue Is. in the Goto Archipelago
- No.45 Natalia Andrulionis; Site-Specific Equations of State for Coastal Waters and Inland Water Bodies
- No.62 Sosuke Otani; Transfer efficiency from primary producers to *Ruditapes philippinarum* on an intertidal flat in Hiroshima Bay, Japan
- No.81 Alexander Krek; Oil pollution of the sea surface of the Southeastern Baltic and possible directions of its propagation



ポスターセッション

No.90 Mari Maeda; Environmental Education for Schoolchildren in a Seawater Pond for Creating a Satoumi

No.97 Violeta Velikova; Identification and prioritization of Hot Spots in managing risks to Black Sea coastal regions

Best Poster of SSP

No.106 Kristin Webb; Viewpoints of the Chesapeake: Influencing Local and Global Citizenship in the Face of Climate Change

No.108 Y. Hayashi; From Amagasaki to the Seto Inland Sea and the World: High School Student Environment Network

No.114 Sergey Krylenko; Characteristics of the cliff plant communities of the Tuapkhat massif

■ 閉会セッション

8月26日(金)14時から、今回の会議の締めくくりとしての全体セッションが、アジムットホテル・アジムットホールで開かれ、アンドレイ・ザツェーピン氏(P.P.シルシヨフ海洋学研究所)が座長となり、ウラジミール・クドリャツェフ氏(ロシア国立水文気象大学)、陳中原氏(華東師範大学)、松田治氏(国際エメックスセンター)の講演がありました。



アンドレイ・ザツェーピン氏
(P.P.シルシヨフ海洋学研究所)

[講演]

1. Vladimir Kudryavtsev, Satellite Oceanography Laboratory, Russian State Hydrometeorological University, Russia
Observation of atmosphere-ocean system and its extremes using satellite sensor synergy and modelling
2. Zhongyuan Chen, State Key Lab. for Estuarine and Coastal Research, East China Normal University, China
Water diversion and sea-level rise: Potential threats to freshwater supplies in the Changjiang River estuary
3. Osamu Matsuda, Vice-chair, International Center for Environmental Management of Enclosed Coastal Seas (International EMECS Center), Japan
History of Total Pollution Load Control and Possible Future Coastal Management in Japan

■ 閉会式

コーヒードリンクの後、16時30分から閉会式が開催され、渡邊正孝氏（国際エメックスセンター）による会議総括が行われ、今回の会議の成果などが報告されるとともに、開催関係者に対する謝辞が述べられました。

また、SSP参加学生が分担して「青少年環境教育交流宣言（SSP宣言）」が朗読されると会場からはスタンディングオベーションで賛辞が送られました。

続いて、ディビッド・ネマジー氏（米国・メリーランド大学）から「サントペテルブルク宣言」が読み上げられ全員で採択されました。

ルーベン・コシアン氏（P.P.シルショフ海洋学研究所）からはベストポスター賞選考委員会で選定されたベストポスター賞（一般6件、SSP3件、合計9件）の発表が行われ、受賞者が紹介され記念品が手渡されました。

最後に、ピアムサック・メナサウエイド氏（タイ・チュラロンコン大学）から、第12回エメックス会議は2018年にタイ王国・パタヤで開催される予定であることがアナウンスされ、参加が呼びかけられました。

閉会式終了後には、ガラディナーが催され、会議の成功を祝うとともに、次回のエメックス会議に向けて各国の参加者同士の交流が深められました。

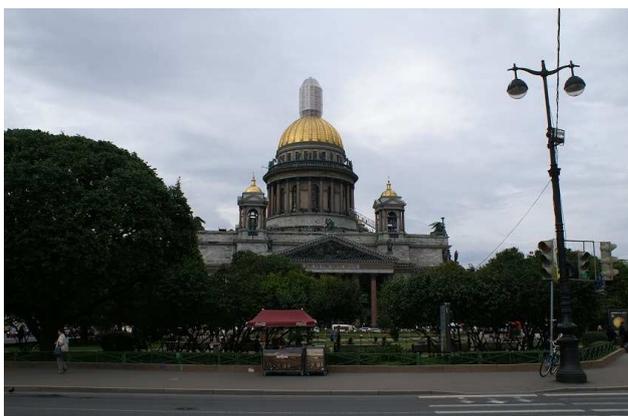


ベストポスター賞



ガラディナー

■ シティツアー : 8月25日(木)



イサク大聖堂

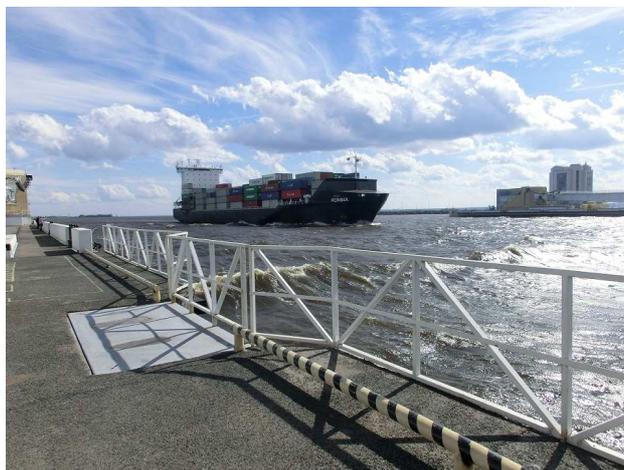


ネヴァ川とエルミタージュ美術館

■ テクテクニカルエクサカーション : 8月27日(土)



洪水防御ダム



クロンシュタット

